

最近アジア関係の専門誌や紀要類にも裏表紙などに英文の誌名や目次を併記するものが増えてきている。

そしてそれらが外国の書誌や研究書に引用されるときは、英文の並列タイトルの方でとられることが多いので、それを見た利用者から当館所蔵の有無を尋ねられたようなばあい、それを洋雑誌と思い込んだりすると間違ふ。

これはそのやや特殊な例かもしれないが、最近受けた問い合わせに、Susan Mamm という著者が、1985年以降に発表した中国清代の女性にかんする論文のタイトルと掲載誌を調べてほしいというのがあった。

中国関係の欧文による論文を検索するには、①『東洋学文献類目』（京都大学人文科学研究所附属東洋文献センター）や②“Bibliography of Asian Studies”などが役に立つ。いずれもアジア関係の定期刊行物・論集所載の論文と単行書を収録した年間書誌で、①は欧文のほかにも日本・中国・朝鮮文の文献を多く収録している。②はアメリカのアジア研究協会の刊行で、欧文文献のみである。

そこでまず②の1985年版の著者索引を見てみたところ、同著者のつぎの論文が見つかった。これは①の同年版でも確認できる。

Mamm, Susan. "Historical change in female biography from Song to Qing times : the case of early Qing Jiangnan (Jiangsu and Anhui Provinces)." TRANS INT CONF OR JA.

no. 30 (1985) 65-77.

タイトルを見て照会論文に間違いないと判断。掲載誌の略語表から誌名“Transactions of the International Conference of Orientalists in Japan (Tokyo)”を確認して、当館所蔵の「外国逐次刊行物目録」および「国内刊行欧文逐次刊行物目録」を見てみたが、どちらからも検索できなかった。念のためそれぞれのデータベース S001, C001 も検索してみたが、やはりなし。

実はこの紀要は現在は収録論文はすべて欧文で書かれているので、本来は洋雑誌として扱われるべきものだが、当館では前からのいきがかりでずっと和雑誌扱いになっていたのであった。

だからこの時点で国際逐次刊行物目録データベース (ISDS) を見ていれば、その日本語誌名が“Kokusai Toho Gakusya Kaigi Kiyō”であることや“Toho Gak-kai”から刊行されていることなども確認できたのだが、そのときはうかつにもそのことを思いつかなかった。

結局、東洋学関係の学会である東方学会に問い合わせたところ、該誌は同会刊行のもので、1冊(初号)(1956)から当館に納本しているとのこと。同会を出している雑誌『東方学』の事業報告欄を見て、やっとその日本語並列タイトルを確認することができた。

その後、この雑誌は25冊(1980)以降は洋雑誌に切り替えられ、和雑誌扱いの1-24冊についても、英語の並列タイトルを注記に出して、データベース(C001)からは英語のタイトルからも検索できるようになった。

(アジア資料課 椎根ノミネ)